



1年生になったら(5)

小学校入学後の生活② ～困りごと(気になる行動)が出てきたとき～

新学期が始まりましたね。前回お伝えしたように、ご家庭で支えてもらいながら少しずつ新生活に慣れていってほしいと思いますが、なかには気がかりな行動がみられるお子さんもいるかもしれません。今回は「困りごとが出てきたとき」についてお話しします。

気になる行動、いろいろ

たとえば「登校しぶり」。新しい環境になじみにくかったり、不安が強い場合にみられることがあります。担任の先生や周りの友だちに慣れ、学校生活や学習の流れがわかってくると安心して落ちつくお子さんが多いですが、長引く場合には何らかの課題が隠れているかもしれません。「この子は何に困っているのか」を詳しくみていき、必要な支援や無理なく通える方法を探していくこととなります。

他にも「教室に落ちついていられない」「学習に集中できない」「お友だちとうまく関われない」なども気になりますね。

困った行動は「困っているサイン」

「どうして学校で困った行動が目立ってくるの？」と戸惑う保護者の方もいらっしゃるでしょう。学校生活はルールがあり、集団ですごす「社会生活」で、「学習」場面が多いです。マイペースですごせる環境では目立たないかもしれませんが、社会生活で直面する困難に気づきやすい状況と言えるでしょう。

困った行動をする子は、実は「困っている子」です。こどもは「なんだかうまくいかない」という困り感を、困った行動を通して周りに伝えているのです。ですから、気になる行動がみられた時は、こどもがどこでつまづいているのかを丁寧に理解し、必要な支援を考える良いタイミングとも言えます。

みんなで一緒にこどもの育ちを支えましょう

こどもの状態を適切に理解するためには、学校や相談機関とつながり、一緒に考えていくことが有効です。学校の先生やスクールカウンセラー、かかりつけの医院、区の相談窓口など、まずはご自身が相談しやすいところから始めてみましょう。学校や地域はこどもの育ちを共に考えるパートナーです。ぜひ一緒にこどもの育ちを支えていきましょう。

※参考:区の相談窓口案内 [江東区 子育てハンドブック](#) で検索

<https://koto-kosodate-portal.jp/handbook/index.html>